

番号	2 - 13	申請者	統括診療部長 坂本 理
<p>【審査申請課題】</p> <p>アレルギー性気管支肺真菌症 第2回全国実態調査</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>アレルギー性気管支肺真菌症 (ABPM) は、喘息患者の気道内に腐生した真菌に対する免疫・アレルギー応答により発症する慢性疾患であり、再発を繰り返す症例も多く、肺の線維化から呼吸不全に至る重症例も存在する。ABPMに関する調査は、これまで環境真菌や背景疾患の異なる海外でのものがほとんどであったが、2013年度に、我々は本邦の初のABPMの疫学・診断・治療の実態調査を施行し、本邦におけるABPMの臨床像がこれまでの海外からの報告と異なることを報告し、従来のABPMの診断基準では診断困難な症例も多数存在することを確認した。そこで我々は本邦の全国調査に基づき、従来のABPM診断基準より感度・特異度の高い、10項目からなる新しいABPM診断基準を作成した。そこで、今回新しい診断基準に基づき診断されたABPMの臨床像を検討するため、本研究を立案した。本研究では新しいABPM診断基準の妥当性の確認と難治症例の特徴・治療指針の作成を目的とし、必要な基礎データを収集するため、ABPMおよび関連病態の的確な診断・治療が可能な全国の日本呼吸器学会認定施設・関連施設、日本アレルギー学会教育認定施設で研究協力の了承が得られた施設に症例調査票を配布する。</p> <p>前回の全国調査結果を踏まえて作成された新たな診断基準に合致したABPM症例を集積し、その臨床像を検討し、より正確な本邦の実情を把握すると共にその診断基準の妥当性を合わせて検討する。</p>			
審査結果	承認 (令和2年9月2日)		